



写真：東日本女性漁業士交流会
料理講習会

最後にありますが、会報の発行にあたり、ご指導頂いた関係機関の皆様及び寄稿・編集に御協力頂いた会員の皆様にお礼申し上げますとともに、会員皆様の安全操業を祈念し、挨拶と致します。

本会と致しましては、こうした状況に対峙し、三陸の豊かな漁場を最大限活用しながら、今後とも漁業士会活動を活性化させてまいります。また、漁業士一人一人におかれましては、自らの知識と技術を活かしながら復興に向けた役割を果たしていくとともに、漁業を担う若い世代への指導をとおして、漁業地域を活性化していくためにご活躍されることを期待しております。

さて、漁業を取り巻く現状は目まぐるしく変化しており、麻痺性貝毒による二枚貝類の出荷自主規制の長期化や、地球規模での気候変動に伴う台風の大規模化により、養殖物への被害も毎年のように発生しています。さらに、昨年十二月十四日に、水産政策の改革に関する「漁業法等の一部を改正する等の法律」が公布されるなど、七十年ぶりの漁業法改正となりました。

当漁業士会は平成二年度に結成されて以来、平成三十年度で二十八年目を迎えることとなります。震災から八年が経過し、生産基盤の復旧整備が進み生産も本格化してきました。これに併せて、漁業士会の活動についても再開してきております。



会員の皆様におかれましては、日頃から復旧・復興に励まれていることと存じます。また、本会の活動にご理解とご協力を頂いていることに対し厚くお礼申し上げます。

いあいさつ
宮城県漁業士会 会長 西條 覚

前会長からのメッセージ

宮城県漁業士会前会長

小野寺 芳浩

一期二年の任期を終え、今期再び宮城県漁業士会副会長という役職を頂くこととなった自分がいます。

漁業士会の会員である者にとって、必携の会報である「海人」第十八号の発行おめでとうございます。

会長職に携わられました諸先輩方、会員の皆様より名を授かり、自分のような者が任期を無事に？全うできたことは、会員の皆様からの温かい励ましと関係機関の職員の方々からの力強い支えなどのおかげもあつてのことと感謝しております。

地元漁協での青年部活動を体験、経験し、漁業士会の存在を知り、会への憧れと期待に胸を膨らませ、入会し、青年漁業士時代から沢山の事を学ばせてもらいました。

様々な活動を行う中、あの未曾有の震災「東日本大震災」を体験、経験し、忘れてはならない、一生胸に留めなければならぬ思いも抱くこととなつてしまいました。それでも少しずつ少しずつ、会の活動内容にも様々な方面で力を付けて来られたように感じており、一漁業者、海に携わる者として、これからも漁業士会活動が、広く後に続く人達に伝わってくれたら...と願わずにはいられません。

そして、広く海を愛し、敬い、恩恵を受け、宮城県漁業士会活動が盛んとなりますように願うものであります。

新漁業士のご紹介

漁業士の認定

宮城県漁業士会事務局

平成三十年六月七日に県庁講堂において平成三十年度宮城県農業士・漁業士退任者感謝状贈呈式及び認定証交付式が開催され、新たに指導漁業士七名、青年漁業士十名が認定されました。

当日は十一名の漁業士が出席し、知事から直接認定証と徽章が交付されました。

これからの活躍を期待いたします。

○指導漁業士（七名）

畠山 泰さん

（ＪＦみやぎ気仙沼地区支所）

伊藤 文彦さん

（ＪＦみやぎ雄勝町雄勝湾支所）

阿部 裕一さん

（ＪＦみやぎ石巻地区支所）

齋藤 恭子さん

（牡鹿漁業協同組合）

水間 健二さん

（ＪＦみやぎ塩釜市第一支所）

水間 さわ子さん

（ＪＦみやぎ塩釜市第一支所）

穴戸 敏浩さん

（ＪＦみやぎ仙南支所（亘理））

○青年漁業士（十名）

尾形 拓弥さん

（ＪＦみやぎ気仙沼地区支所）

須藤 大介さん

（ＪＦみやぎ志津川支所）

後藤 新太郎さん

（ＪＦみやぎ志津川支所）

佐藤 寛高さん

（ＪＦみやぎ北上町十三浜支所）

武山 綾佑さん

（ＪＦみやぎ北上町十三浜支所）

千葉 拓実さん

（ＪＦみやぎ雄勝町雄勝湾支所）

後藤 章さん

（ＪＦみやぎ石巻市東部支所）

手代木 泰伸さん

（ＪＦみやぎ鳴瀬支所）

石森 圭太さん

（ＪＦみやぎ七ヶ浜支所）

木村 宏さん

（ＪＦみやぎ仙南支所（亘理））



新たに認定された漁業士

漁業士研修等の報告

平成三十年度東北・北海道ブロック漁業士研修会

宮城県漁業士会

指導漁業士 小野寺 芳浩

平成三十年五月二十三日と二十四日の二日間、東北・北海道ブロック及び日本海ブロック漁業士合同研修会が青森市で開催され、千葉監事らと出席しました。日本海ブロックとの合同開催で、北は北海道から太平洋側は茨城県、日本海側は山口県まで十三道府県の漁業士が一堂に会しました。

初日は、大分県臼杵市における地元水産物の高付加価値化の取組みに関する講演を拝聴し、その後、各道府県漁業士会の活動報告及び意見交換が行われました。各地から特色ある取組が報告され、一方で後継者不足が共通する課題として挙げられました。夕方からの交流会では、青森県漁業士会の皆様から心温まる熱烈な大歓迎を受け、陸奥湾産ホタテガイと海峽サーモンに舌鼓を打ちつつ、有意義なものとなりました。

二日目は現地視察として、青森市内のホタテガイ加工場と、五月にオープンしたばかりの産直施設「はたて広場」を訪れました。加工場は、高度衛生管理型の大規模なもので圧倒されました。

来年度の東北・北海道ブロック漁業士研修会は、北海道で開催されます。



ホタテガイ加工場の見学



合同研修会

平成三十年度東日本女性漁業士交流会

宮城県漁業士会

指導漁業士 豊嶋 恵美子



ホタテガイ加工場の見学

平成三十年度の交流会は、宮城県が幹事県となり、八月二十九日と三十日の二日間の日程で宮城県女川町にて開催しました。

初日は、宮城県農林水産部水産業振興課の酒井敬一氏を講師に迎え、「宮城の海並びに水産業について」といったテーマで講演が行われました。宮城の水産業と復興状況の他、魚離れの実態と魚食の必要性についての話がありました。

魚介類の年間消費量は年々低下しているが、水産物には様々な機能性成分



講演の様子

が含まれており、体に良いことは医学的にも立証されているなど、非常に有意義な講演でした。この他、世界の魚料理の紹介などがありました。

講演後は、これまでと趣向を変え、初の試みとなる料理講習会を行いました。引き続き、酒井敬一氏に講師をお願いし、3グループに分かれて、宮城の旬な水産物を使った世界各国料理を、様々な料理テクニックとともに教えていただきました。日頃家庭で作る料理とはひと味違い、新鮮であり、また、とても勉強になりました。

参加した皆さんから喜んでいただいていた大変良かったと思います。

二日目は女川魚市場と蒲鉾本舗高政の視察を行いました。

交流会は各県の女性漁業士が再会し、喜びと新たな問題を分かち合える貴重な場となりました。来年度の東日本女性漁業士交流会は岩手県で開催されます。

平成三十年度全国漁業士連絡会議

宮城県漁業士会

指導漁業士 西條 覚



他県漁業士と一緒に記念撮影

平成三十年度の全国漁業士連絡会議が平成三十一年二月二十七日に農林水産省で開催されました。

当年度は、「地域における漁業士の役割（活動）及びメリット」について議論がなされました。東北・北海道ブロックからは、代表県である青森県から各県の取組みについて報告がありました。また、他のブロックからは、JICAより依頼のあった漁業研修に係る海外派遣への対応などの取組について報告がありました。

した。さらに、魚を美味しく消費者に届けるため、魚の神経締めなどの品質管理において漁業士が先頭に立って普及に努めていることなどの取組事例の紹介もありました。メリットについては、求めるものではないなどの意見もありました。

「次年度ディスカッションテーマ」については、複数のブロックから提案のあった「新規就業者の確保に向けた漁業士の役割について」に決定いたしました。他の都道府県の先進的な取組事例を知ることが出来る貴重な場であり、今後ともこの会議を機に全国の漁業士会との情報交換や連携を通じて、本県漁業士会の発展に寄与することを目指していきます。



全国漁業士連絡会議の様子

支部だより

北部支部

岩手県漁業士会大船渡支部と宮城県漁業士会北部支部の交流会

宮城県漁業士会北部支部事務局

当支部では、今年度も岩手県漁業士会大船渡支部との交流会を行いました。

本交流会は、両支部の情報交換と相互の親睦を深めるため、平成十一年度から、震災後の二年を除き毎年続いています。今回は、平成三十年九月四日、岩手県陸前高田市で開催し、参加者数は四十名と、ここ数年の中でも多くの参加となりました。

内容は二部構成で、初めに東北区水産研究所資源環境部の高見秀輝さん、寛茂穂さんから御講演いただきました。高見さんからは震災後の両県沿岸におけるアワビ資源の動向についてお話があり、寛さんからは情報通信技術を用いたワカメ養殖場の栄養塩予測について情報提供がありました。

続く第二部では、両支部副支部長が座長となり、意見交換を行いました。参加漁業士からは各浜の生産状況のほか、講演に関連して、アワビの放流場所に関する質問や、震災後の陸から

の栄養塩流入不足を懸念する意見が出ました。特に、両県共通の課題である磯焼けについて、各地区からウニの駆除や海中造林の取組みについて報告があり、大変参考になりました。交流会後の懇親会では、広田湾の特産品であるエゾイシカゲガイが振る舞われました。来年度交流会は当支部主催により開催予定です。



両支部漁業士が出席



意見交換

漁業士会ロゴマークの活用

宮城県漁業士会北部支部事務局

昨年、漁業士の認知度向上を目的として、宮城県漁業士会ロゴマークが制定されました。当支部会員も早速、名刺などに漁業士会ロゴマークを活用しています。県内漁業士の中でもいち早く漁業士会ロゴマークのシールを作り、自らの商品に貼り付けている当支部会員からは、「取引先からの評判がよい」との声が聞かれています。

このような中、当支部では、より多くの会員にロゴマークを活用した漁業士会のPRを進めてもらうため、今年に入ってお試用のロゴマークシールを作り、会員に配布したところであります。今後は、シール以外にもロゴマークをあしらったグッズを作るなど、さらにPRを進めていきたいと考えています。



漁業士会ロゴマークのシール

中部支部

首都圏での本県水産物の販売動向について

宮城県漁業士会

指導漁業士 西條 幸正

新技術習得交流事業(先進地視察)

平成三十年度の漁業士会中部支部では、六次産業化や商品開発、首都圏での本県水産物の販売動向把握を主なテーマに、漁業士自らが取り組む課題に対応するため新技術習得事業を実施しています。

「首都圏での本県水産物の販売動向」をテーマに視察を企画し、「株式会社フーディソン」「宮城ふるさとプラザ」「第一ホテル東京」に伺い、本県水産物に対する考えや、消費者の動向について伺うことが出来ました。

ホテル関係者からは、「宮城の食材取引を行ったことがあるが、数量変更や価格の連絡が全くなかった。こちらから連絡しても担当者が不在で取引に時間がかかり大変であった。届けてもらう食材は全て良く、申し分のない非常に良い食材であったが対応に問題があり、こちらから取引を断った経緯がある。宮城の食材が良いことは十分知っているし、使いたいと思っているが、東京で物を売ることが甘いものではない。宮城の食材を使いたいと思っ

る意味や難しさを改めて理解することができた研修でした。

直接、宮城の水産物を扱う担当者や食材を利用するシェフから率直な意見をもらうことで、生産者自身、首都圏で求められる食材や取引手法等の情報を得ることができたことは、今後の生産、商品開発及び販売に向けた取組に弾みがつくものと思われました。



株式会社フーディソン
(ワカメ製品の評価と販売に関する意見交換)



第一ホテル東京
(水産物の利用に関する意見交換)

地先資源を活かした六次産業化・商品開発について

宮城県漁業士会中部支部事務局

宮城県漁業士会中部支部地区懇談会

震災から八年が経過し、養殖業や漁船漁業による水揚量は震災以前に戻りつつありますが、漁業種類によっては水揚げ金額が伸び悩んでおり、地先の水産資源を活かした水産物の付加価値向上による漁家経営の更なる安定が求められています。

そのため当支部では、六次産業化や商品開発、首都圏での本県水産物の販売動向を把握するために、漁業士自らが取り組む課題に対応するため、九月十四日に株式会社パイロットフィッシュの五日市代表取締役を講師として懇談会を実施しました。

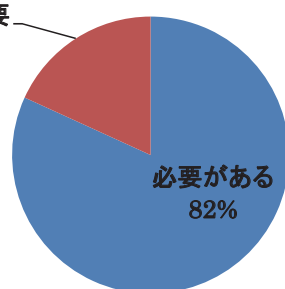
当日は、漁業士以外にも、後継者育成の観点から青年部や研究会、浜を支える女性部の方々にも参加いただきました。

商品開発には、「商品を作り販売するまでのストーリー性」「対象とする売り先のコンセプト」「販売戦略」等について生産者とともに取り組んできた成功事例をもとに講演をいただきました。

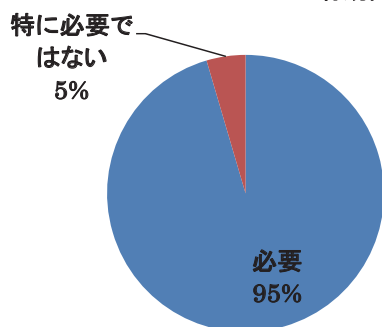
懇談会後のアンケート結果では、参加者の八割が生産者自ら商品開発や販売に取り組む必要があると考えており、九割近くが今回の内容をシリーズ化することを希望されましたので、来年以降も、更に踏み込んだ

内容で開催を検討してまいりたいと思います。

生産者自ら商品開発や販売に取り組む
※有効回答人数:22名



今回の懇談会テーマのシリーズ化は
※有効回答人数:22名



懇談会アンケート結果(一部抜粋)

南部支部

「ＩＴの活用や資源管理に関する先進地視察」

宮城県漁業士会南部支部事務局

漁業士会南部支部では平成三十年六月二十六日～二十八日に山口県内で視察研修を開催し、漁業士四名が参加しました。今回は南部支部で力を入れている「水産×ＩＴ」に関連して、ＩＴを活用して生産・品質の向上に取り組む企業の視察のほか、山口県水産研究センターを訪問し、資源管理や漁場モニタリングに関する最新の研究成果を学びました。

研修初日は岩国市にある旭酒造（株）で、ＩＴを活用した酒造りの視察を行いました。製造過程で温度や重量が細かく測定されており、蓄積されたデータは、品質の向上や製造のマニュアル化、機械化へ生かされていました。一方で、機械では管理できない繊細な工程では、手間暇を惜しまずに職人が作業にあたっていました。ＩＴを上手に活用する取組は、これからの「水産×ＩＴ」ととって大変参考になりました。二日目は山口県農林水産部に協力を頂き、山口県水産研究センター（外海研究部（長門市）と内海研究部（山口市））の視察を行いました。外海研究部では、山口県の高級魚としてブランド化を進めるキジハタの資源管理に関する取組について学びました。漁業者向けに放流マニュアルを作成し、研

修会を実施することで技術の向上を図るほか、小型魚の再放流の徹底と出荷した場合の罰則の強化を行い、漁協と県が一体となって資源管理に取り組んだ結果、漁獲量は着実に増加しているとのことでした。

内海研究部では、赤潮プランクトンの大量発生による養殖魚の斃死を未然に防ぐための漁場モニタリングに関する研究について学びました。山口県ではトラフグ等の養殖漁場で赤潮プランクトンの大量発生による魚類斃死が度々問題となっております。そのため、養殖漁場にクロロフィルセンサーを設置し、クロロフィル量のモニタリングからプランクトンの大量発生を予測し、生産者に注意喚起を促す取組が行われていました。

今回の視察研修で得られた知見を生かし、今後の「水産×ＩＴ」や資源管理といった取組に役立てて行きたいと思っています。



山口県水産研究センター 外海研究部での研修

子ども食堂での取組み

宮城県漁業士会南部支部事務局

食普及活動の一環として、今年度から仙台市内の子供食堂に海苔やサケといった水産物の食材提供を行いました。提供した食材は「おにぎり」や「はらこ飯」の材料として利用されました。食材を提供するだけではなく、水産物への興味・関心をさらに高めてもらうために、漁業士が実際に子供食堂を訪問し、子供達やその保護者に水産物のＰＲ活動を行いました。参加した漁業士からは子供達が美味しそうに食べてくれてうれしかった、意義のある活動なので是非継続したいといった声がありました。今後も子供食堂での食材提供を継続し、県内の水産物に対する興味・関心が高まることを期待しています。



子供食堂で海苔養殖について説明する千葉指導漁業士

農業士との交流

宮城県漁業士会南部支部事務局

平成三十年十一月二十一日に仙台市内のレストランで農業士との技術交換交流会を開催しました。当日は漁業士、農業士、その他関係者計二十四名が集まり、一グループ四名程度に分かれて、互いの旬の食材をコラボレーションした三品の料理（アナゴとフォアグラのテリーヌ、苺のソース、カキのソテーと白ネギの焦がしバターソース）を味わいながら、生海苔とだて正夢のクリームリゾット）を味わいながらグループトークを行いました。グループトークでは、カキ筏の廃材を有機栽培の土壌に活用するという提案や、農業士と漁業士の合同販売イベントの実施など活発な意見交換が行われました。今回の交流会の開催をきっかけに、漁業士と農業士の連携をさらに深めていきたいと思っています。



グループトーク

トピックス

「みやぎ漁師カレッジ」が開催されました

宮城県漁業士会事務局

「みやぎ漁師カレッジ」長期研修及び短期研修が開催され、座学や漁業現場の講師として多くの漁業士の方に御協力いただきました。

本県の漁業就業人数は、高齢化や後継者不足により減少の一途を辿っており、東日本大震災によりその傾向は一層顕著となっています。本県の漁業者数は、平成二十五年現在で約六千五百人ですが、県の試算では平成五十年には、約三千二百人に半減すると推測されています。このため、漁業の担い手となる後継者の育成、新規就業者の確保が急務となっていることから、県では平成二十八年度より「みやぎの漁業担い手確保育成支援事業」を立ち上げ、「みやぎ漁師カレッジ」による七ヶ月の長期研修や五日間の短期研修を実施しているところであります。

平成三十年六月一日から始まった「みやぎ漁師カレッジ長期研修」では、県内外から新規漁業就業希望者四名、漁業後継者四名の計八名が集まり、宮城の水産業の概要、水産関係諸制度、ロープワーク等の座学、ノリ・カキ・ワカメ・ギンザケ・ホヤ・ホタテ養殖、刺網、定置網等の現場研修を行いました。

また、研修の中で、漁師になるために必要な一級小型船舶操縦士、第二級海上特殊無線技士、フオークリフトなどの資格を取得しました。長期研修は平成三十年十二月二十一日に無事修了式を迎えることができました。新規漁業就業希望者のうち、三名は現在女川町のギンザケ養殖業や南三陸町のカキ養殖業等に就業しており、残り一名は独立のための準備を行っております。

平成三十年八月六日から十日に開催された「みやぎ漁師カレッジ第一回短期研修」では、県内外から十名が集まり、ホヤ・ホタテガイ養殖、刺網、定置網の網起こしを体験しました。このうち、一名は塩竈市浦戸でノリ養殖業に就業しました。



定置網研修の様子

平成三十年十月二十二日から二十六日に開催された「みやぎ漁師カレッジ第二回短期研修」では、県内外から三名が集まり、カキ養殖、刺網、定置網などを体験しました。このうち二名は、七ヶ浜町でノリ養殖業や石巻市桃浦でのカキ養殖業へ就業しました。



ロープワークを学ぶ短期研修生

県では次年度以降も「みやぎ漁師カレッジ」長期研修及び短期研修を行う予定です。
「みやぎ漁師カレッジ」に御協力いただいた漁業士の方々をご紹介します。（順不同）

○「長期研修」

小野寺 芳浩 指導漁業士
小松 武 青年漁業士
鈴木 公義 指導漁業士

○「第一回短期研修」

千葉 周 指導漁業士
三浦 恒志 指導漁業士

○「第二回短期研修」

後藤 修 指導漁業士

漁業士以外にも漁業士OB、漁業関係者、漁協関係者、水産業普及指導員など、多くの方々に御協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、来年度の漁師カレッジに御協力いただける漁業士の方がいましたら、漁業士会事務局に御連絡下さい。

「2018漁業就業支援フェア」が仙台で開催されました

宮城県漁業士会事務局

宮城県と公益財団法人宮城県水産振興協会が主催する「2018漁業就業支援フェア」が、平成三十年九月一日に仙台市にあるイベントホール松栄で開催されました。

このフェアは、新規就業について直接相談できる場を提供し、「漁業就業希望者」と「若い担い手を確保・育成したい漁業者」のマッチングを図るた

め、平成二十九年度に県が初めて開催したものです。当日は、八十名の来場者があり、十五団体（県漁協、北部船主協会等）がブースを設け、漁業就業希望者に海の仕事の魅力を伝え、活発な質疑に答えていました。漁業士では、千葉周指導漁業士と後藤修指導漁業士が参加しました。

来年度以降も同フェアを開催予定ですので、担い手を確保したい漁業士の方がいましたら、漁業士会事務局に御連絡ください。



出展団体ブースの様子



先輩漁師の話に耳を傾ける来場者

青年漁業士養成講座について

宮城県漁業士会事務局

宮城県が主催する「青年漁業士養成講座」が平成三十年七月二十四日・二十五日に宮城県水産技術総合センターで開催されました。

受講者は五名となり、最新の漁業情報や漁家経営のあり方、漁業士会副会長からの基調講演等の講義を熱心に受講していました。

本講座を受講された方には、宮城県指導漁業士又は青年漁業士の認定資格が与えられます。認定後のご活躍を期待しています。

○受講者の方々

尾形 貴春さん（JFみやぎ気仙沼地区支所）
高橋 浩太郎さん（JFみやぎ志津川支所）
江刺 寿宏さん（JFみやぎ石巻地区支所）
小野 真義さん（JFみやぎ宮戸西部支所）
赤間 拓哉さん（JFみやぎ松島支所）



青年漁業士養成講座の様子

第十七回宮城県青年・女性漁業者交流大会の開催について

宮城県漁業士会事務局

平成三十年八月八日に石巻市河北総合センター（ビッグバン）を会場として、第十七回宮城県青年・女性漁業者交流大会が開催され、青年三団体、女性グループ三団体の計六団体から日ごろの活動実績が報告されました。

①持続可能で高品質なマガキの養殖生産

～日本初の国際養殖認証「南三陸 戸倉っこかき」の誕生

JFみやぎ志津川支所戸倉出張所カキ部会
後藤 清広

②目指せ！海難事故ゼロ

～すべての浜に反射器設置を～
JFみやぎ歌津支所女性部
三浦 弘子

③地域の仲間を増やすために

～地域おこし協力隊を活用した人材発掘～
JFみやぎ塩釜市浦戸支所青年部
阿部 義隆
荒井 啓汰
藪本 翔太

④島のおすそわけ

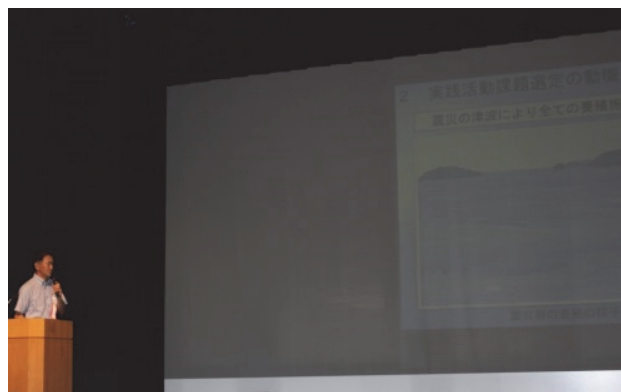
～浦戸でがんばる母ちゃんたちが心をこめて作ります～
合同会社がんばる浦戸の母ちゃん会
内海 由美子

⑤インターネットを活用した魚食PR活動

～おらだづ浜のYouTube～
JFみやぎ石巻市東部支所女性部
武田 寿子

⑥長面浦若い衆の奮闘記

～おらほの基幹はやっばしコレ～
JFみやぎ河北町支所所属漁業士
小川 英樹
坂下 隆



交流大会の様子

第二十四回全国青年・女性漁業者交流大会で好成績

宮城県漁業士会事務局

平成三十一年二月二十八日・三月一日に東京都のホテルグランドアーク半蔵門を会場として、第二十四回全国・女性漁業者交流大会が開催され、JFみやぎ志津川支所戸倉出張所カキ部会及び合同会社がらんばる浦戸の母ちゃん会が活動実績を発表しました。

各都道府県の審査を勝ち抜いた全国の青年・女性漁業者が日ごろの研究・実践活動を発表する場とあつて、どの発表もレベルの高いものでありました。本県の代表は、宮城県青年・女性漁業者交流大会からさらに磨きをかけた活動実績発表を行い、審査員から高い評価を受け、JFみやぎ志津川支所戸倉出張所カキ部会が第一分科会（資源管理・資源増殖部門）で、最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。

本当におめでとうございます。

震災を乗り越えた活動や技術の向上に関する取組など、いずれの発表も素晴らしいものでしたが、審査の結果、JFみやぎ志津川支所戸倉出張所カキ部会及び合同会社がらんばる浦戸の母ちゃん会が平成三十一年二月に東京で開催される全国大会へ推薦されることとなりました。なお、昨年度県代表として全国大会で発表したJFみやぎ谷川支所青年部が水産庁長官賞、JFみやぎ仙南支所（亘理）水産加工研究会が農林水産大臣賞を受賞しています。



農林水産大臣賞を受賞したJFみやぎ志津川支所戸倉出張所カキ部会の後藤さんほか

漁業士会加行事

宮城県漁業士会では平成三十年度に以下の行事に参加・協力をいたしました。

漁業士認定検討会

宮城県が実施する漁業士を認定するための検討会。会長が検討委員として対応しました。

宮城県漁業協同組合青年部総会

来賓として会長が出席しました。

第十七回宮城県青年・女性漁業者交流大会

本大会は県内の青壮年・女性グループが参加し取組事例等を発表する大会。会長が来賓として出席しました。

水産青年フォーラム

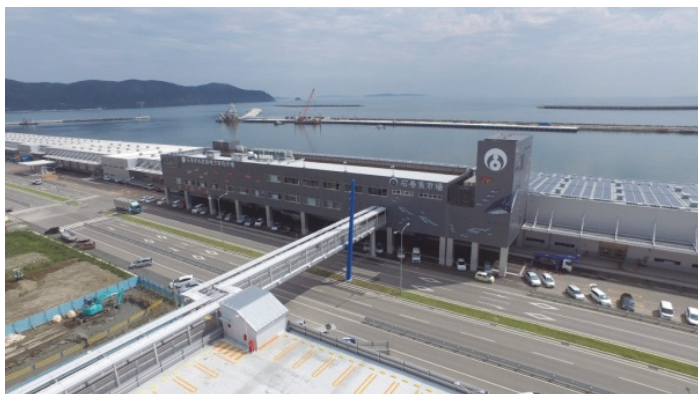
この催しは宮城県漁業協同組合青年部が主催するグループ協議の場であり、六名の漁業士を助言者として派遣した他、会長が来賓として出席しました。

農山漁・パートナーシップ推進宮城県大会

この催しは農山漁村の男女共同参画の推進について意識啓発を図り、女性がその能力を発揮できる社会の実現を目指すことを目的とした大会です。宮城県漁業士会として大会の後援を行いました。

第四十回全国豊かな海づくり大会について

震災から十年目に当たる平成三十二年には、「第四十回全国豊かな海づくり大会」が石巻市で開催されることが決定しました。東日本大震災から復興を果たした姿と本県水産業の魅力在全国に発信するべく、宮城県漁業士会としても、会長が大会実行委員となるなど、委員として関係者と一丸となつて準備に取り組んでまいります。



会場となる石巻市水産物地方卸売市場・石巻漁港

退任漁業士のお知らせ

平成二十九年度末までに認定期間が終了し、退任されました方は次のとおりです。

指導漁業士

○平成二十九年度末任期満了

菊田 守さん（ＪＦみやぎ気仙沼地区支所）
 豊嶋 祐二さん（ＪＦみやぎ石巻地区支所）
 木村 喜久雄さん（ＪＦみやぎ鳴瀬支所）
 八木 重義さん（ＪＦみやぎ宮戸西部支所）
 尾形 静子さん（ＪＦみやぎ宮戸西部支所）

これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。

「みやぎ水産の日」×宮城県漁業士会

平成二十六年十月から宮城県により、県産水産物の消費拡大を図る取組の一環として、毎月第三水曜日を「みやぎ水産の日」と制定し、県漁協、市場関係や販売店等と連携して、水産物の魅力を発信する取組をスタートしています。

これに併せ、宮城県漁業士会としても各支部で「みやぎ水産の日」にあわせた販売会などの取組を行っています。

今後とも宮城県漁業士は「みやぎ水

産の日」と連携した取組を展開していきます。



宮城県漁業士会ロゴマーク

漁業士の認知度向上（ＰＲ）と漁業士が生産した商品の付加価値向上を目的として、宮城県漁業士会のロゴマークを作成しました。

宮城県漁業士会の認知度向上を目的とした取組（名刺、封筒、ホームページ、店舗の入口への掲示等）、商品パッケージへの使用、及び商品の販売促進等で幅広く活用いただければと思います。使用規程や申請書、ロゴマークの電子データは宮城県農林水産部水産業振興課のHP（<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/suisin/>）に掲載されております。詳しくは県漁業士会事務局又は所属の支部事務局にお問い合わせください。



訃報

水間さわ子指導漁業士（ＪＦみやぎ塩釜市第一支所）が、平成三十年八月九日に急逝されました。会員一同謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。

海人では、皆様からの原稿をお待ちしています。内容は自由で、四〇〇字詰め原稿用紙一枚から二枚にまとめ、漁業士会事務局までお送りください。

海人編集委員（敬称略）

北部委員 小野寺芳浩
 中部委員 西條 覚（委員長）
 南部委員 千葉 周